

「 オイラだけのママ 」

実はさ、オイラ、ママのことを生まれたときからずーっと知っているんだ。

ママはね、オイラとおもちゃで遊ぶことが大好きなんだ。オイラはどうかって？そりゃ楽しいよ。ママがお片付けしてくれるなら、ね。おもちゃたちはきれいに片付けされていないといけないんだよ。

ママはね、いつもきれいなんだ。たまにママは口紅をつける。そしてオイラもちょこっとつける。これはしてもいい事。
オイラはたまにママのドレスをもっとかわいくしてあげる。でも、これはしてはイケナイ事だったっぼいね。

ママはね、いつもオイラと^か買^{もの}物するんだ。

“お^{こめ}米、お^{やさい}野菜、果^{くだもの}物…”

^{ほか}他に^{わす}忘れて^{いる}いるものはないかな？

オイラさ、物^{もの}を^{はこ}運^{じょうず}ぶのがとても上手なんだ。しかも、オイラは物^{もの}をしまうの
も^{じょうず}上手なんだよ。さっきまであったお^{かし}菓子^がが…

“ちちんぷいぷい”

なくなっちゃうんだ。オイラのお^{なか}腹^{なか}の中にしまっておいたよ。

ママはね、^{てんき}天気がいい^ひ日にオイラとブランコに^の乗るんだ。どっちが^{たか}高くこげるかな？もちろんオイラはちょっとママを^{てっだ}手伝ってあげる。じゃないとオイラが^か勝っちゃうからね。

“ママ！もっと^{たか}高く！”

“もっと^{たか}高く！”

オイラさ、^{やま}山を登るのが^{のぼ}大好きなのだ。この^{くも}雲よりも^{たか}高い山をオイラは^{やま}頂上^{ちょうじょう}めがけて^{のぼ}登る。そして、^{ちょうじょう}頂上^{たか}についたらママがキスしてくれるんだ。

オイラさ、^{じつ}実は^{おうさま}王様なんだ。

“パカラッパカラッ” “パカラッパカラッ”

“ママ！もっと^{はや}速く！”

“もっと^{はや}速く！”

オイラさ、隠れるのが上手なんだ。誰もオイラを見つけられない。ママでさえもね。それでオイラはいきなり叫ぶんだ。

“いないいないばあっ！”

そしたらママはすごくびっくりするんだ。それがおかしくておかしくていつも
わら
笑っちゃうよ。

オイラさ、水やりをするのが大好きなんだ。いつも途中で雨が降って来ちゃうんだけどね。

ママはね、いつも優しいんだ。でもね、怒るととっても怖いんだ。それから
ママはなんで怒っているのかを説明するんだけど、その話がうーんと長いんだ。

オイラさ、空^{そら}を飛^とぶのが夢なんだ。オイラなら何^{なん}でもできるってママは言^いってくれるんだよ。

“ほらね！もうお空^{そら}に届^{とど}きそう！”

だけどママは手放^{てはな}してくれないんだ。

ママはね、寝^ねるときにオイラのズボンの星^{ほし}をお空^{そら}に飾^{かざ}ってくれるんだ。そして「家^{オイラとママ}族」はギュッとハグをして言^いうんだ。

“おやすみ、星^{ほし}さん、また明日^{あした}。”